



本校は、2009年に西日本初の国際バカロレア（IB）DP認定を受けた一条校で、生徒はグローバル社会のリーダーを目指しています。今回は生徒たちが夏に参加したイベントを特集しています。

第2回ひろしまジュニア国際フォーラムに9名が選抜

昨年度に引き続き、今年度も本校から9名の高校生が参加しました。招かれた40名の外国人高校生や県内の高校生及び留学生と国際平和についての討議や交流等を通じて、平和のメッセージを世界に発信するとともに、国際的な相互理解を深めました。第2回目となるこのフォーラムでは、平和資料館の見学や被爆体験講和の聴講等を行い被爆の実相を学ぶとともに、国際平和をテーマとしたディスカッションを行い、その結果を「広島宣言」として発表しました。



後日参加者代表の一人として本校の高2渡部魁くん（中左）が、報告とお礼を兼ねて国連大学本部と外務省を表敬訪問しました。佐藤外務副大臣（右）・湯崎広島県知事（左）

カナダ・バンクーバーでの語学研修



《右写真：広島県提供》

バンクーバー空港にて研修への決意を胸に記念撮影。



中1・高1の9名が5週間、中3の4名は半年間の語学研修のために、バンクーバーに出発しました。それぞれが現地のホストファミリーに迎えられました。



語学学校のピクニックに参加しました。たくさんの友達もできました。



語学学校は、少人数クラスで、先生との距離もとても近く話やすい環境です。

海外ボランティア



inフィリピン



CEC Japan Network
が運営するボランティア
プログラムへ参加



inタイ



高2の奥さんと山本さんは、セブ島での活動に参加しました。リゾート地のイメージを持たれがちですが実は貧困に苦しむ人々が生活している地でもあります。スラム街での炊き出しや孤児院の訪問をしました。逆境の中でも力強く生きる子どもたちに勇気をもらい、自分自身を見つめ直すきっかけになったようです。

高2の武内くんは、ワットサケオスクールの日本語授業にアシスタントスタッフとして活動しました。この学校は、幼稚園から高校までの全寮制の学校でワットサケオというお寺が運営しています。教育を受けるのが困難な生徒に対して無償の教育と生活を提供しています。

「World Scholar's Cup Global Round」へ出場



Scholar's Ballというパーティーで
日本代表の他校の生徒と記念撮影

本校の高校生8名が、九州ラウンドを経て、世界大会に出場しました。1チームはベトナム（ハノイ）で行われた大会へ、2チームは、ギリシャのアテネで行われた大会へ出場しました。いずれも1週間をかけ、英語を使用した様々なアクティビティで競い合います。ただ、自分たちと世界の高校生たちとの歴然とした実力の壁を感じて帰ってきたようです。井の中の蛙にならないための良い経験になったのではないのでしょうか。



ハノイ大会的一幕です。
頭にのせているアルパカのぬいぐるみは、このイベントのマスコットキャラクターです。この大会へも40数カ国の生徒が集まりました。



アテネ大会の閉会式の様子です。40数カ国の代表者が国旗を掲げました。



英語スピーチコンテスト最優秀賞受賞



世界平和への思いを英語で語りました。



岡山県の吉備国際大学主催の英語スピーチコンテストで、高1曾根川かなえさんが見事最優秀賞に輝きました。参加者21名の中で高1の生徒は彼女を含めて2名のみでした。彼女は中学から英語を勉強し始めました。朝の英語1分間スピーチなど学校での様々な英語活動の努力が実を結びました。



中1 English Camp

本校の多くのネイティブの先生達がプロデュースしてくれるイベントです。



朝から晩まで全てが英語という生活に初めは戸惑っていた生徒たちも、この3日間で英語を使うことの楽しさを実感してくれたようです。また、上手に伝えられないもどかしさを感じて、改めて英語を頑張りたいと決意する生徒もありました。この経験を糧に、今後の学校生活でも臆することなく積極的に英語でコミュニケーションを取って欲しいと思います。



最後の夜は焼肉！

広島土砂災害の記憶を継承していくための活動



3年前の広島土砂災害について、日本応用地質学会のご協力のもと、本校の数名の生徒が調査を進める中で実はこの地方での土砂災害は今回が初めてではなかったことがわかりました。それは古文書からも読み取れました。さらに、地域における災害発生の危険性に理解を深め、次世代へ継承していくためにはどうすればよいかと考えたところ、この度の絵本作成とその読み聞かせという活動へとつながりました。NHKの防災ラジオ番組でもインタビューを受けました。



幼稚園での読み聞かせの様子